

令和4年度 在宅医療介護連携推進事業

高齢者住まい看取り研修会 ～研修企画のまとめ～

本研修会の実施にあたり、企画のねらいや第1回実施分の事後アンケートなどをまとめています。

R3年度二次医療圏単位での取組例です。

- ・ 県央保健所・・・介護事業所等を対象にACPアンケートの実施し、研修企画の立案。
- ・ 益田保健所・・・看取り介護加算の算定状況を抽出し、圏域の方向性を検討。
- ・ 雲南保健所・・・各地域ケア会議では、介護職員の「死」に対する課題感などを抽出。

研修コンテンツの紹介



VR動画を視聴しながら、ファシリテーターの解説とオンライングループワークで内容を深めていくプログラム



VR体験「救急医療における診療室」

救急医療における心臓蘇生

注目すべき視点

- ・高齢者が救急搬送された後、病院でどんな医療措置が行われるか
- ・適切な医療とはどこからをいうのか 自分ごととして考えてみる

© SHARU Inc., Ltd.

VR体験「家族との対話」姪と息子

注目すべき視点

京子さんが肺がんによって3回目の入院。
姪と息子の意見が対立してしまう。

© SHARU Inc., Ltd.

VR体験「ある入居者」本人の思いを知る

VR体験「ある入居者」 本人の思いを知る

ある入居者

注目すべき視点

京子さんはどんな思いを持って、この高齢者住まいに入居してきたのか？

© SHARU Inc., Ltd.

VR体験「生きとし生けるもの」

VR体験「生きとし生けるもの」

生きとし生けるもの

注目すべき視点

最期を生き切る多美子さん、そこに寄り添う家族、そして最後まで伴走する介護職の姿。

4つのVR動画を視聴しながら、「ACP」や「看取り」について学んでいきます。

チェック① 最期を迎える場所

【死亡場所】

病院・診療所や自宅が減り、施設で最期を迎えるケースが増えてきた。

(島根県第8期介護事業支援計画より)

「人生の最期は住み慣れた家で看取られたい」という思いとは裏腹に、生涯未婚率の上昇による単独世帯の増加によって、自宅で最期を迎える方は2割に満たないのが現状。

⇒ 島根県においては

病院・診療所

71.5%

介護医療院・老健・老人ホーム

16.1%

自宅

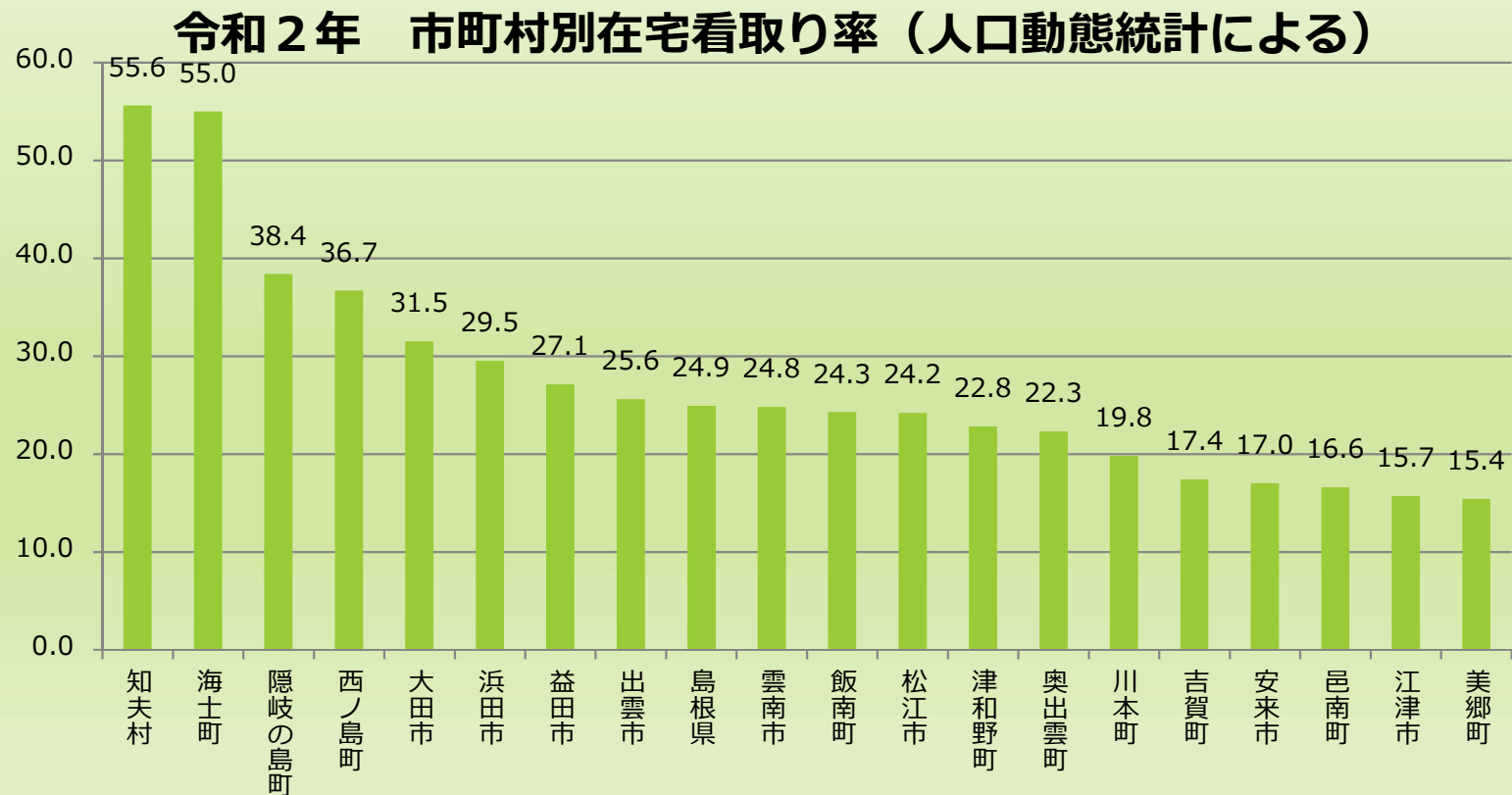
10.2%

(2019年ベース)

特に介護医療院などの施設で最期を迎える方が増えてきています。独居での自宅生活が困難であったり、看取りに対応する施設が増えてきていることが要因として考えられます。

チェック② もう少し詳しく看取り率

【死亡場所】
病院・診療所や自宅が減り、**施設で最期を迎えるケース**が増えてきた。
(島根県第8期介護事業支援計画より)



たとえば、市町村別の在宅看取り率をみてみると、市町村ごとに特徴があります。

チェック③ 看取り介護加算の仕組み

死が避けられないとみなされた方に対して、身体的かつ精神的苦痛を緩和・軽減しながら生活支援を行う介護事業者に対して算定される加算。

看取り介護加算の概要

看取り介護加算とは

2006年に創設された、死が避けられないとみなされた方に対して、身体的・精神的苦痛を和らげるためのケアを行う事業所に算定される加算

看取り介護加算Ⅰ

死亡日31日前～45日前	72単位/日
死亡日4日前～30日前	144単位/日
死亡の前日および前々日	680単位/日
死亡日	1,280単位/日

看取り介護加算Ⅱ

死亡日31日前～45日前	72単位/日
死亡日4日前～30日前	144単位/日
死亡の前日および前々日	780単位/日
死亡日	1,580単位/日

※看取り介護加算Ⅰ、看取り介護加算Ⅱはそれぞれ算定要件が異なる

看取り介護加算を算定できる事業者

- 特別養護老人ホーム
- グループホーム
- 特定施設入居者生活介護（介護付有料老人ホームなど）

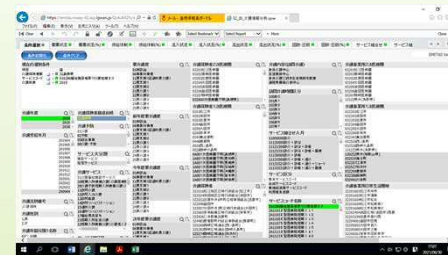
2021年の介護報酬改定における 看取り介護加算の変更点

- 「人生の最終段階における医療・ケアの決定プロセスにガイドライン」の推進
- 算定期間の延長に伴う新たな区分の創設
- 看護職員の配置による報酬上乘せ
- 居宅介護費の算定要件変更
- 訪問介護でも看取りを評価する仕組みの検討

【訪問介護の加算検討】

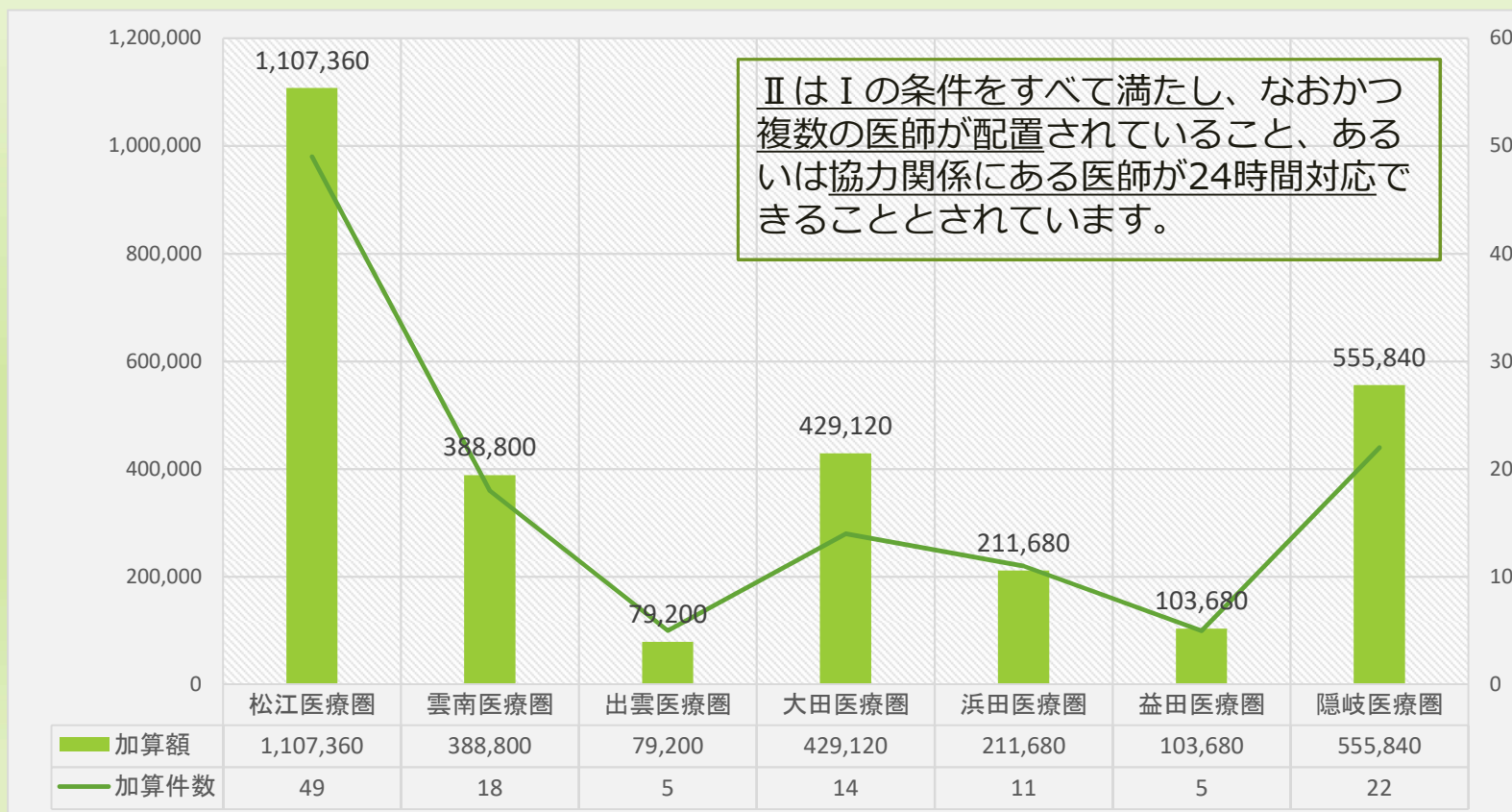
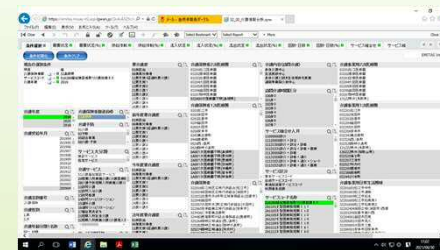
日常的な状態観察に加えて、患者の状態変化について医療サイドに随時、情報連携を行う訪問介護員の業務負担に報いるという点より議論が行われているようです。

チェック④ 介護加算 I - 1 (emitasGより抽出)



2019年圏域別では、出雲圏域や松江圏域で介護加算 I - 1 の取得傾向が高くなっています。

チェック⑤ 介護加算Ⅱ-1 (emitasGより抽出)



ⅡはⅠの条件をすべて満たし、なおかつ複数の医師が配置されていること、あるいは協力関係にある医師が24時間対応できることとされています。

2019年圏域別では、松江圏域で介護加算Ⅱ-1の取得傾向が高くなっています。

チェック⑥ 研修企画のポイント

【研修コンテンツ】

株式会社シルバーウッドは映像（特にVR）を使った研修企画を多数展開。厚労省事業の採択も多く、満足度が高い。

【ターゲットの設定】

- ・ **対象圏域**

第1回（6月実施）

介護資源（医療も）が厳しい県西部を中心とした圏域を優先実施。

第2回（8月実施）

全県的に実施。

- ・ **対象者**

介護従事者等

現場で尽力する介護従事者へのACP普及を狙い、従事者のモチベーションや看取りや終末期ケアの質向上につなげたい。

チェック⑦ 研修企画のポイント

【市町村との共催】

- ・ 事前に意向調査を行い、希望する市町村との共催事業とした。
- ・ 市町村には、研修周知の協力や研修後のフォローアップを期待。

（理由）

- ・ 現場の専門職と密接に関わる市町村との協力が不可欠であるため。
- ・ 市町村と一緒に、幅広くACPの普及を進められるため。
- ・ 医療介護連携は、圏域くらいで考えていくとちょうど良いため。

（補足）

本来、圏域単位の議論や企画は、各保健所が強みを発揮するものの、現在は感染症対応が最優先。感染状況が落ち着きを見せた段階で「地域医療構想調整会議医療介護連携部会」などの会議も再開予定。

チェック⑧ 第1回目参加者内訳

- 特に参加していただきたい層
- 管理業務を担う職員がキーマンの一人

1. 圏域／市町村別							2. 職種別		
圏域	市町村	6月14日	6月15日	6月16日	6月17日	合計	圏域計	職種	
雲南	8雲南市	15	7	1	2	25	41	介護支援専門員	75
	9奥出雲町	1	1	1	1	4		介護職員	35
	10飯南町	2	0	6	4	12		看護師／看護職員	35
大田	5大田市	0	6	13	20	39	54	保健師	21
	11川本町	3	0	5	0	8		施設管理者	12
	12美郷町	2	0	0	0	2		事務職員	8
	13邑南町	0	3	1	1	5		サービス提供責任者	7
浜田	7江津市	5	9	3	7	24	49	社会福祉士	5
	2浜田市	7	6	7	5	25		その他	18
益田	4益田市	14	12	12	6	44	68	合計	216
	14津和野町	8	0	0	4	12			
	15吉賀町	1	7	0	4	12			
	その他	0	2	1	1	4			
	合計	58	53	50	55	216			

第1回目は、想定するターゲット層（所属や職種）からの参加がほとんどであり、及第点。

チェック⑦ 第1回目評価（アンケート速報）

	本日の満足度を教えてください	
大変満足	51	52.0%
満足	45	45.9%
やや不満足	2	2.0%
大変不満足	0	0.0%
計	98	100.0%

	本日の研修によって看取りやACPへの理解が進んだと感じますか？	
感じる	70	71.4%
どちらかというと感じる	27	27.6%
どちらかというと感じない	1	1.0%
感じない	0	0.0%
計	98	100.0%

	本日の研修によって看取りを積極的に行いたいと感じましたか	
感じる	52	53.1%
どちらかというと感じる	45	45.9%
どちらかというと感じない	1	1.0%
感じない	0	0.0%
計	98	100.0%

	本日の研修によって看取りの際に感じる心理的負担が和らぐ（和らぐだろう）と感じますか？	
感じる	40	40.8%
どちらかというと感じる	53	54.1%
どちらかというと感じない	5	5.1%
感じない	0	0.0%
計	98	100.0%

	本日の研修を他の方にも薦めたいと思えますか？	
はい	98	100.0%
いいえ	0	0.0%
計	98	100.0%

	看取りに関わられた経験について教えてください。	
経験あり	77	78.6%
経験なし	21	21.4%
計	98	100.0%

共催市町村とは詳細な内容を共有し、連動的な取組につなげていきます。

自由意見の記載も興味深く、介護従事者の現状が垣間見える貴重なサンプルとなった。意見の分析とともに、8月に追加研修（同内容）を実施し、さらなる普及啓発を進めたい。

チェック⑨

自由意見まとめ

【感動した】

・ 動画が涙なしでは見れないです。そのあとの意見交換に支障がでます。余韻に浸っていると意見まとまらなかったです。しかし、涙が出た自分に少しほっとした所です。

【学びになった】

・ VR体験で感じ取ることができ、理解が体感として深めることができ、とても良かった。

・ 他事業所の方と話す機会があり、どのように感じているのかが知ることができた。

【今後取り組んでいきたい】

・ ご本人からの聞き取りが難しいときはつい家族さん本位のサービスに偏ってしまいますが、ご本人ならどうしたいと思えますか？という問いを通して、本人本位の生き方を確認していく事を少しずつでも実践できればと思います。